

[18_06]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468126>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報．18（6），1985-11-25．九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



お 知 ら せ

英日自動翻訳システムATLAS-Iの使用について

標記システムが使えるようになりました。これは、英文テキストを日本語に翻訳するシステムです。TSS, バッチいずれでも使用できます(コマンド名, カタログドプロシジャ名はともにATLAS I)。マニュアル[1]を参照のうえご使用ください。

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OS IV ATLAS-I 解説書(70AR-3000-1), 富士通(株)。

(ライブラリ室 電(内) 2523)

(センターニュースNo.318, 昭和60年8月12日発行)

結晶構造データベースシステムXDTのデータの追加について

8月9日からXDT[1]は結晶解析数が3,420増えて、全体で47,165になりました。結合ファイルエントリ数の増加は2,956で、全体で42,145です。

参考文献

1. 河野ほか 結晶構造データベースシステムXDTについて(総合版), 九大大型計算機センター広報 16, 6, 1983, 556-604.

(データベース室 電(内) 2510)

(センターニュースNo.319, 昭和60年9月2日発行)

共通利用番号制について

いまでは全国の大型計算機センターがN1ネットワークで結合されています。今後研究者が複数のセンターを利用することが多くなって来るものと思われます。しかし大型計算機センターを利用しようとする研究者は、利用するセンターごとに類似した形式の利用申請を行い、センターにより様式の異なる利用番号を得なければ、該当センターを使用できません。また、利用申請を提出した後利用番号の発行を受けるまで数週間かかるのが普通です。このような状況を改善するために、全国共同利用大型計算機センターと文献情報センターの8機関が参加し、共通利用番号制委員会をつくり、利用申請、利用番号の統一化を検討してきました。この委員会の報告書に沿って、現在各センターでは利用システムを作成中です。共通利用番号制委員会では、共通番号制度の概要を利用者にお知らせするために、次のような共通記事をセンターで広報することになりました。なお、申請手続き等の詳細については追ってお知らせします。

共通利用番号制の実施のお知らせ

全国共同利用大型計算機センター
共通利用番号制委員会

全国共同利用大型計算機センター（北大・東北大・東大・名大・京大・阪大・九大）では、昭和61年度から「共通利用番号制」を実施する予定で準備を進めています。同じく全国共同利用センターである東大文献情報センターもこの制度を採用します。ここに共通利用番号制の概要をお知らせし利用者の皆様のご理解をいただきたいと思います。

「共通利用番号制」とは

従来、7つの大型計算機センターでは、それぞれの利用番号（課題番号と呼んでいるセンターもあります）を用いてきました。共通利用番号制では、すべてのセンターが同じ形式の番号を用い、他のセンターを利用する場合にも、自分のセンターの番号でそのまま利用できます。

共通利用番号の形式

全部で7桁となります。

Z 9 9 9 9 9 X (Z: A~Z, 9: 0~9,
X: A~Z, 0~9)

第1桁～第6桁を「利用者番号」と呼び、全国で一人の利用者がユニークに決まります。第7桁を「支払コード」と呼び、支払費目ごとにコードを割り当てます。第1桁～第7桁を「登録番号」と呼びます。利用者番号は一人に一つで、ずっと続きますから覚えやすくなります。支払責任者、経理責任者にも同じ形式の番号を発行します。

申請手順の概略

利用者は主として利用するセンターを自分のセンターとして選びます。これを「所属センター」と呼びます。実際には最初に申請書を提出し、番号が与えられたセンターが、その利用者の「所属センター」となります。ほとんどの利用者にとって「所属センター」は自然に決まると思われる。最初の申請手続きは従来のやり方に近いものになる予定です。所属センターで二つ目の登録番号をもらう場合（たとえば校費ですでに利用している利用者が、新たに科研費で利用しようとするような場合）、利用者番号はそのままです。従って申請書のいくつかの欄は記入を省略することができます。所属センター以外のセンター（「第二センター」と呼びます）を利用したい場合、所属センターへTSSで、第二センターへの登録を依頼します。（勿論、TSSを使わない利用者のための代替処置は用意します。）必要なデータのほとんどは所属センターに登録してありますので、利用したいセンター名の他にはほとんど何も入力しなくてもいいようになる予定です。所属センターが必要なデータをネットワークで第二センターへ転送し登録を依頼します。通常、かなり短期間に所属センターと同じ番号で登録され利用可能となります。

利用者は第二センターへは利用申請のための書類を提出する必要はありません。手続きはすべ

て「所属センター」を通じて行われます。

ネットワーク時代に対応して

従来の各センターの利用番号はそれぞれの運用と一体化しているもので、すべての利用者の番号の形式を統一するということは、変更の際して一時的には、利用者にもセンター職員にも大きな負担となります。しかし、今後ネットワークの利用がますます増えることは明かです。全センターが自由に使えるようにしておく事は重要なサービスの一つですので、思い切って利用番号を統一することに致しました。

利用者の皆様のご理解をお願いする次第です。

(センターニュースNo.320, 昭和60年9月20日発行)

STINGY, FCMP のレベルアップについて

1. 圧縮印刷プログラム STINGY

1) 追加機能

- ・旧STINGYはレコード長80バイトの固定長レコード形式のデータセットしか処理できなかったが、新STINGYは可変長(VB)と固定長(FB)の両方のレコード形式のデータセットを処理できる。
- ・印刷は行番号などを除いて各レコードの実質280バイトまでを行う。
- ・旧STINGYではデータセットの先頭からの通し番号(4桁)とともに内容を印刷していたが、新STINGYではデータセットに含まれている行番号(6桁)を付加して印刷する。
- ・出力先として、TSS 端末、プリンタ(DSPRINTの対象になるもの)、および日本語ラインプリンタのどれでも自由に選択できる。

2) コマンド形式

コマンド名	オペランド
STINGY	DSN [SY(* 出力クラス)] [DSPRINT(プリンタ機番)]

オペランドの説明

- ・DSN : 印刷したいデータセット名を指定する。省略不可。
- ・SY : 出力先を指定する。省略時は▼*▼を指定したものとみなされ、TSS 端末に出力される。日本語ラインプリンタへ出力する時はその出力クラスをO, K, S, Uなどで指定する。ただし次に述べるDSPRINTオペランドを指定するとこのオペランドは無視される。
- ・DSPRINT : プリンタ(ハードコピー装置)に出力する時に、そのプリンタの機番(IF 25, IF 46, M77Hなど)を指定する。

2. ファイル比較プログラム FCMP[1]

1) 追加機能

- ・旧FCMPではレコード長80バイトの固定長レコード形式(FB)のデータセットしか比較できなかったが、新FCMPでは固定長または可変長レコード形式(VB)で、任意のレコード長のデータセットを比較できる。ただし実際に比較するのは行番号などを除いて各レコードの先頭から220バイトまでである。
- ・新FCMPでは指定したデータセット名を結果に含めて表示する。旧FCMPでは比較するデータセット名が結果に含まれていなかったため、もともとよく似たデータセットを比較することもある。プリンタに出力した結果を後から確認するときなど、どちらがどちらかわからなくなり混乱することがあった。
- ・旧FCMPでは比較結果の前後に表示される同一の▼まとめ▼をすべて同じ出力先へ表示していたが、新FCMPでは最初の▼まとめ▼は必ずTSS端末へ表示し、比較結果と最後の▼まとめ▼を一緒に指定された出力先へ表示する。これによって比較結果をプリンタへ出力したときでもTSS端末で結果の概略を把握することができる。
- ・旧FCMPでは行番号の位置に無関係にレコードの最初の72バイトを比較の対象としていたが、新FCMPでは行番号を除いて最高220バイトまでのテキストを比較する。そのため例えばCOBOLプログラムで行を挿入・削除して行番号をつけ直しても、特別な配慮をせずに意味のある比較を行うことができる。
- ・比較の結果は各レコードの内容に、データセットの先頭からの行数ではなく、実際にデータセットの各レコードに付加されている行番号をつけて表示する。

2) コマンド形式

コマンド名	オペランド
FCMP	DSN1 DSN2 [PARM(SN SW DN DW)] [SY(* 出力クラス)]

オペランドの説明

- ・DSN1 : 比較したいテキストファイルを指定する。比較結果の左のファイルとなる。
- ・DSN2 : 比較したいテキストファイルを指定する。比較結果の右のファイルとなる。
- ・PARM : 比較結果の出力形式を指定する。パラメータの組合わせとしては、SN, SW, DN, DWの4つがある。パラメータの意味については[1]を参照されたい。特に指定しないとSN(最も簡潔な出力形式)を指定したものとみなす。
- ・SY : 結果の出力先を指定する。特に指定しないと▼*▼を指定したものとみなし、TSS端末に結果を表示する。日本語ラインプリンタなどに結果を出力したいときは、出力クラス(O, K, S, Uなど)を指定する。

参考文献

1. 藤村 ファイル比較プログラムFCMPの機能改善について、九州大学大型計算機センター広報, 18, 6, 1985, 601-611
(ライブラリ室 電(内)2523)
(センターニュースNo.320, 昭和60年9月20日発行)

保存データセットのマイグレーションについて

9月30日(月)より、共用ボリュームの有効利用のために、下記の条件のいずれかを満たす長期間使用されていないデータセットを自動的にMSS(マスメージック)へ移動する処理(自動マイグレーション)を行います。

- ① 前回使用した日から180日以上参照していないもの
- ② 30日以上参照していないもので、以下の式が成立するもの

$$\text{スペース量(トラック数)} \times \text{前回使用した日からの経過日数} > 600$$

これにより、共用ボリュームのスペース不足がある程度解消されますので、現在ディスク領域確保時の制限となっている最大スペース量を、初期値1000トラック(1トラックは47KB)に拡大します(現在は100トラックとなっている)。ただし、増分量は従来どおり100トラックまでです。

マイグレーションされたデータセットは、次回使用時に自動的に共用ボリューム上に戻されます(自動リコール)。なお、データセット課金は従来どおりです。

(業務掛 電(内)2518)

(センターニュースNo.320, 昭和60年9月20日発行)

投 稿 の し お り

センターでは利用者の方々とより深い交流をはかるため、次のような種類の原稿を募集しています。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 随 想 | 2. 計算機を利用して行なった研究・開発の紹介 |
| 3. プログラムの実例と解説 | 4. センターに対する質問・要望 |
| 5. 利用者の声 | 6. その他計算機に関すること |

執筆上の注意

1. 原稿用紙は原則として、当センター規定のものを使用してください。(共同利用掛にあります)
2. 黒鉛筆、黒ボールペン、黒インクのいずれかで書いてください。
3. 原則として、当用漢字、現代かなづかいで統一してください。
4. 図、表は別紙に明瞭に書き、挿入位置を明示してください。
5. 別刷は原稿提出時に希望があれば、50部まで無料とします。ただし、配布先一覧が必要です。

原稿の掲載については広報教育委員会で検討させていただきます。その他投稿に関するお問合せは共同利用掛(TEL. 内線 2505)へどうぞ。

原稿の送付先は次のとおりです。

福岡市東区箱崎6丁目10番1号(〒812)

九州大学大型計算機センター 共同利用掛